

10/4  
9/7/70

# 関電監査役総会前に把握

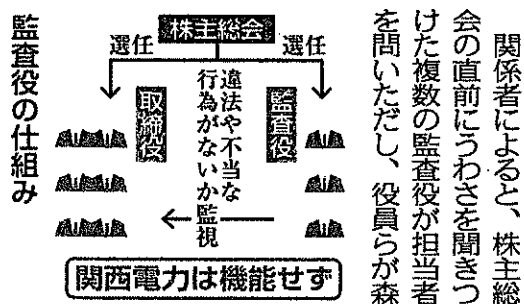
## 金品受領 隠蔽崩せず非公表

関西電力の監査役が金品受領問題を今年六月の株主総会を前に把握し、経営陣の対応に疑問を投げ掛けたことが三日、複数の関係者への取材で分かった。監査役は経営陣を監視する機能を担うが、関電の隠蔽体質を崩せないまま問題の公表は見送られ、機能不全に陥っていた実態が浮き彫りになった。経営陣が都合な事実を隠してきたことを監督官庁の経済産業省は問題視しており、筆頭株主の大阪市の松井一郎市長も「新しい体制をつくるべきだ」と述べるなど経営トップの辞任要求が強まっている。＝関連⑩⑪面

## 元助役20年前も提供

一方、高浜原発のある高浜町の元助役森山栄治氏（故人）が少なくとも約二十年前にも同様に金品を提

供していたことも判明。関電の原子力部門が長かった元幹部が「法外な品」を受け取ったと共同通信の取材に証言した。



監査役 会社法で定められた株式会社機関の一つで、取締役と同じく株主総会で選任される。経営の業務や会計に違法または不当な行為がないか監視する役割を担い、不当行為があると認められた場合は、取締役会や株主総会に報告する義務がある。任務を怠った場合には、株主に生じた損害を賠償する責任も負う。

山氏から総額三億一千八百四十五万円相当の金品を受け取っていたことを把握した。別の関係者は「監査役と経営陣の間でかなり激しいやりとりがあったと聞いた」と明かした。しかし岩根茂樹社長らは報道があるまで公表も取締役会への報告もしなかった。関係者は「監査役が把握した時点で表に出してお

けば、こんな事態にはならなかった」と語った。経営陣が隠蔽した背景には、原発関連工事の情報を元助役に長年提供していた事実が社内調査で明らかになったことがある。関電は「見返りではない」としているが、二日公表した報告書は「契約交渉への悪影響や談合誘発の恐れがあった」と問題点を指摘している。監査役への対応も不十分だったとの指摘がある。元監査役は取材に対し「他の監査役とも情報を共有していた」と証言したが、関電の情報開示につなげることはできなかった。問題を知らながら、取締役会を開いて報告を求めるところまではせず、監査役も関電の隠蔽に結果的に加担していた可能性がある。